

大崎市

しゅんとうりゅうようきょく

春藤流謡曲



大崎市田尻大貫新田^{に た の め}ノ目集^{ごらんぶかた}落に伝わる春藤流謡曲は、江戸時代に流行した流派の一つで、御乱舞方と呼ばれる能楽を専門に行う武士をおして地域に伝承されてきたものです。

明治以降になると、謡曲を習得することは農村部の成年男子にとって、成人した大人と認められる第一歩とされ、小寒から大寒に移る冬の最も寒い時期に「寒稽古^{かんげいこ}」と呼ばれる稽古に参加し習得に努めます。

「寒稽古」は厳しい中にも、稽古を通して、先輩から地域に伝わる風習などを学ぶ機会ともなり、歴代の指導者の果たした役割は大きいものでした。伝承は昭和37年頃に一時途絶えましたが、昭和52年に「春藤流謡曲保存会鉢の木会」を発足したことにより、現在に継承しています。

